

国立研究開発法人国立環境研究所との共同研究

(研究期間：2014年5月から2016年3月)

LPガス自動車の排ガス性能優位性試験結果

2015年6月23日

LPガス自動車普及促進協議会

研究への取り組み

国立研究開発法人国立環境研究所（環境研）が行っていたガソリンとディーゼルのPM2.5の発生メカニズムについてはすでに評価がなされていたが、LPガスは研究の対象になっていなかった。

そこでLPガス自動車普及促進協議会は、環境研と共に共同研究の形で最新のLPガス、ガソリン、ディーゼル車両を同一条件にて排ガスの実証実験することによりPM2.5と共にCO、THC、NO_x、CO₂、CH₄、NMHC等の環境性能を比較することにした。

研究の目的はLPガス自動車の環境性能を社会にアピール出来るかということである。

ただし、PM2.5の粒子状物質の発生については環境研の専門の分析員により現在解析中であり、今回の研究報告は第一弾である。